



たかおか



令和8年(2026年) 1月28日
姫路市立高岡小学校 学校だより
文責：梶原 伸夫 No. 35

教育目標：やさしく かしく たくましく

❖ 五字ヶ丘幼稚園との交流(1年生)

1月27日(火)に1年生が五字ヶ丘幼稚園の園児たちと交流しました。初めて入る校舎や教室、初めて見る授業に年長さんたちは興味津々でした。交流は1時間でしたが、1年生の授業を参観したり、一緒に遊んだり、いつもと違うちょっと特別な時間を過ごしました。入学先の学校は様々ですが、4月からはみんな1年生。いろんな園所からやってくるたくさんの友達に会い、国語や算数といった教科の授業が始まり、世界が大きく広がりますね。これまでとは違う世界に戸惑うことも多いでしょうが、先生方やたくさんの先輩たちがやさしく手を差し伸べてくれるでしょう。

一方で、一緒に遊んだり、授業を受ける姿を見せたりしている1年生はどこか誇らしげな感じ。いつもより張り切って発表したりなんかして、ちょっぴりお兄さんお姉さんになった気分なのかな。4月からは2年生、先輩として新しく入ってくる1年生に学校のことをいろいろ教えてあげなければいけませんね、1年前に自分たちがしてもらったように。



1年生がしっかり仕切りながら進めます



1年生も夢中で遊んでいます



後輩にいい所見せなきゃ!



園児たちも真剣に発表を聞いています

❖ 茶道教室(6年生)

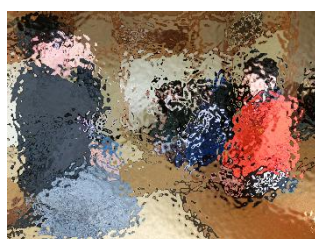
1月26日(月)と27日(火)に茶道裏千家教授 高田宗聡先生にお越しいただき、6年生が茶道を体験しました。

「茶道」とは、日本の伝統的な様式に則り、亭主が客人にお茶を点て振舞い、客人は亭主のおもてなしを受け、お茶をいただくことをいい、「茶の湯」とも言われます。

茶道では、お茶の点て方、いただき方、座り方、礼の仕方、立ち方、歩き方の動作にも色々な決まりがあり、これを作法といいます。この作法は、客人をもてなし、お茶をおいしく差し上げるため、また客人がもてなしを受け、お茶をおいしくいただくためにできたものです。※「東京大茶会」HPより一部抜粋

高田先生は「ただお茶を飲んでお菓子を食べたり、難しい作法を覚えたりするだけではなく、頂く側は色々な人の手を経て自分のところに回ってきたお茶を味わいながら、その方々への感謝の思いを馳せること。点てる側は、相手においしいお茶を飲んでもらおうというおもてなしの心、思いやりの精神を持つこと。感謝と思いやりの心が茶道なのです。」と言われていました。

「茶道」とは、お茶を通した人の心と心の触れ合いなのだと思います。



所作を気にしつついただきます



掛け軸も茶道の一部です



「お点前頂戴いたします」



「ふくさ」のたたみ方も練習しました